定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb 版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

第 11 回　KOBEカンタービレ・コンサート開催！

2019 年 12 月 21 日（土）に、新長田勤労市民センター別館ピフレホールにて、第 11 回KOBEカンタービレ・コンサートを開催しました。

今回もＮ委員と元奨学生でコロンビア・日本ルーツの現在大学２年生、Ｄさんの司会でコンサートは開演しました。兵庫県立大学マンドリン部のすてきな音色の演奏から始まり、樋口大祐実行委員長の挨拶の後、神戸市混声合唱団の方によるこの時期らしいクリスマスソングをはじめとする曲を披露いただきました。指揮者やピアニストの方などを含め総勢３２名の方々の素晴らしい迫力のある合唱や様々な演出により、参加者の皆さまからは「楽しかった！」「素晴らしかった！」というお声をたくさんいただきました。

またコンサートの幕間には奨学生がステージに上がり、司会者の質問に答える形で学校生活の様子や日本に来てからのことについて観客の皆さんに語りました。参加者の方からは、「若い人達が頑張っている姿に私も力をもらいました」という感想などをいただきました。

ホールのロビーでは、「定住外国人子ども奨学金」の設立経緯や活動内容を紹介するパネルを展示し、演奏終了後のロビーでは奨学生を中心に募金への協力のお願いなどを行い、多くのご寄付もいただくことができました。

今回は 12 月のクリスマスシーズンの開催となり、参加される方にとって参加しやすいのかどうか不安に思う部分はありましたが、出演者の方のお力によって、約 200 名の方にお越しいただくことができました。また奨学金事業や外国にルーツを持つ子どもたちの抱える課題について「知らなかった」「もっとPRすべきだ」というご意見を複数頂き、広く知っていただく機会にもなったかと思います。

今回も趣旨にご賛同いただいた多くの方にご協力いただきました。素敵な演奏をしていただいた神戸市混声合唱団と兵庫県立大学マンドリン部の皆さま、賛助広告、後援・協賛をいただいた団体・個人の皆さま、また当日ご参加いただいた多くの皆さまに、この場を借りて御礼申し上げます。(事務局 Y.S.)

奨学生からのメッセージ

S さん（12 期生）

「日本語教室」

私は、週に一回、日本語教室に通っています。F 駅のすぐ近くにあり、家からも近いので、とても便利です。中学まで日本語を習っていた先生の紹介で、6月から通い始めました。教室には、色々な国の人がいて、国際色豊かです。ベトナムの人が一番多くて、二番が私と同じ中国の人だそうです。レッスンは、1 時から始まり、90 分です。日本人ボランティアの先生と一対一で、いつもアッと言う間に終わってしまいます。最近は特に、学習の申し込みが多く、日本に仕事をしに来ている人たちが殆どです。来日1ヶ月未満の人も中に含まれます。時々、見かけるパキスタンやタンザニアの女性たちがそうでした。時間のある時は、少し話をします。色々な人と出会えるのが楽しいです。

私が通うようになった一番の理由は、もっと日本語がうまくなりたいと思ったからです。それに先生や他の人たちともうまくコミュニケーションを取りたいし、丁寧な言葉や敬語もきちんと使えるようになりたいとも考えていたからです。来日してすぐの小学生の頃は、日本語の正しい使い方が全然分かりませんでした。にこにこ会に通っていると、間違った使い方を直ぐに先生に直してもらうことができました。ここの教室では、少しやり方が違います。日本語能力試験3級を一年後に受けると決めたので、受験勉強をしています。そして、バイトでよく使う接客表現をきちんとマスターできるように練習しています。やらないといけない勉強は、たくさんありますが、特に日本語で色々なことが考えられるようになりたいです。学校の勉強や社会に出てからの仕事に役立つと思うからです。難しくて嫌になる時もあるけれど、わかった時はとても嬉しいです。

学校、バイト、日本語の勉強を三つやっていくのは、正直とてもしんどいです。でも、私は諦めません。卒業する時は、もっと日本語がうまくなって、将来の可能性を拡げたいです。

N さん（12 期生）

「学校以外での思い出について」

学校外での思い出で、印象深かったのは、11 月 6 日に行われた総合文化祭の準備です。総合文化祭とは、神戸の三宮にあるデザインクリエイティブセンター神戸 KIITO で行われていた、兵庫県の高校生達が美術の作品を出品・展示する催しです。私は総合文化祭で、作品を出品したかったのですが、応募が多く出品できませんでした。ですが、来年には出品ができるので、それに向けて頑張りたいです。

今回の準備では、私は荷物を運ぶ手伝いをするために行きました。私達一年生は初めての総合文化祭だったので、どんな感じなのだろう、と思っていました。実際に行ってみると、たくさんの高校から出品された作品を展示していて、私も展示の手伝いをしました。展示を終えると、私達美術部はたくさんの高校から出品された作品を見て回りました。どの作品もとても素晴らしく、見惚れてしまうほどの作品が多く展示されていました。友人や先輩の作品もそれらに並ぶほどの作品でした。絵の具の使い方や、色塗り、描かれている物もすべて細かく、光と陰の使い方がとても上手でした。私もこのような作品を作りたいと思いました。絵画の方の展示を見終え、次に見に行ったのは、工芸・立体の作品でした。どれも素敵な作品で、手が込んでいるな、と思いました。たくさんの高校から様々な作品が出品され、展示された、総合文化祭。どの作品も一生懸命力を込めて作り込まれた作品でいっぱいでした。

私は今回の総合文化祭で、作品を出品することはできませんでしたが、様々な作品を見たことで、自分も展示作品の様に素晴らしい作品を作りたいと思いました。そして、どの作品も、その作品に込められた思いがとても伝わってくるようでした。私も、来年の総合文化祭に向けて、展示された作品のように、素晴らしい作品を作れるように頑張りたいです。そして、それと同時に、学校生活、勉強や将来の夢に向けて頑張りたいと思いました。

R さん（12 期生）

「将来の進路となりたい職業」

将来、自分は通訳の仕事に就きたいと考えています。私は外国の勉強をすることに興味をもっており、いろいろな外国語を勉強したいのがその理由です。今の私は中国語がよくできます（あたりまえです!）日本語は日本に来てからまだ二年目なので、不十分です。自分の目標は英語とスペイン語を習得することです。なぜかというと南米やヨーロッパの多くの人たちとコミュニケーションできるようにするには、英語とスペイン語は最低必要だと思うからです。これらの言語を習得することで、アジア、ヨーロッパ、南米の人々との言葉の壁を取り除き、仕事などをする上で、速く、正確な交流を助ける存在になればと思います。

夏休み中に、いろいろな大学を見学しました。それぞれの雰囲気がよくわかりました。いろいろな授業を体験しました。将来、自分がどんな仕事に就きたいのか、その仕事に就くにはどのような条件があるのか、その職業に就くための方法など、たくさん学びました。だから今は、自分の二年生の勉強の計画を立てています。高校二年生から、文系と理系二つの種類のクラスに分かれるので、どちらに進むのか、考えなければなりません。私は文系に進むことに決めました。国際学部の大学に進学するのが目標です。でも現実的に今の私の実力では難しいと思います。高校生活は、一年生の半分が終わりました。今、私が頑張っているのは、現代文と古典の授業です。現代文は大学進学においても大変重要な科目ですし、日常生活でも使うので、しっかりと学習したいです。

高校の先生方は、熱心に教えてくれます。放課後も補習をしていただき、私にとって難しい科目を集中的に勉強しています。日本人の生徒がゼロから学習し成長していくのに比べれば、私は日本語が下手ですから、マイナスからのスタートだと思っています。だから、人より五倍も十倍も努力して、成績を伸ばしていき、大学進学を実現したいです。

社会に出れば、先生のサポートはありません。自分一人でも学び続けられるようにならないといけないと思います。だから、自分で目標を決めて、苦手な科目をがんばって勉強し、将来なりたい職業になるために、あきらめません。がんばります。

A さん（11 期生）

「幸せとは」

幸せの定義は多くの人にとって、とても難しいことだ。人によっても、その状況によっても、大きく違ってくる。幸せを見つけるのは本当に大変なことだ。

お金があれば幸せなのだろうか。これは人によって答えが違ってくるのだ。主観的に考えると、確かにたくさんのお金があれば、好きなもの、欲しいものが簡単に手に入り、いつ、どこでも好きなところに行ける。でも、お金をたくさん得るには、たくさん働かなければならない。たくさん働くには大切な人と居る時間も削らなければならない。そして、時間とともに大切な人も失うことになると思う。そして孤独になる。だから、お金だけでは幸

せになれないと私は思っている。反対にお金はないけれど、時間がたっぷりある人は幸せなのか。これも難しいと思う。私は実際にその様な人たちを目にしたことがある。その人たちは本当に幸せそうな顔をしていた。愛があれば、家庭は成り立つと思う。

八百年前に、フリードリヒ二世が行った実験がある。赤ちゃんに衣食住のみを与え、一切スキンシップをしないという実験だ。半分以上の赤ちゃんはすぐに死亡したそうだ。この実験で分かるように、人間は物理的なものだけでは幸せになれないということが明らかだ。

私は今が幸せだと感じている。その理由は家族や友人によって心を満たされているからだ。私にとっての幸せは、自由と愛を得られることだ。

まず家にいる時と学校にいる時を比べてみる。家にいるときは、自分がしたいことを好きなだけできるし、優雅な一時をすごせるのだ。その時間をどう使うかは自分で決められるから幸せだ。また、学校にいるときは、家と違って上の人が決めたルールがあり、それらを守らなければならない。学校は自分だけの学びの場ではない。だから自由な時間をあまり得られない。でも友達と関わりを持つことで、笑ったり、時には涙するときもある。それらの感情を抱くことで人間らしくなれる。それも幸せだと思っている。

家でも学校でも幸せを感じられるけど、自分にとって大きく違うのは、両親から得られる壮大な愛があるかないかだ。自分がどれだけ苛立たしいことをしても、自分のダメなところを見せても、自分のすべてを受け入れてくれる。それらがなくなったら、生きていてしんどいと思う。家族からの愛があり、とても幸せ。今をもっと大切にしようと思う。一日一日を大切に。そして、感謝を忘れないこと。これが私にとって幸せになれる方法だ。

U さん（11 期生）

「私の幸せ」

私は幸せだと思えることが沢山あります。例えば友達と一緒に話している時や家族と笑いあっているとき、近所の人と昔の話をしたりする時が幸せだと感じます。朝、学校へ行き、友達と挨拶をし、昼にみんなとご飯を食べ、夕方に友達とゆっくり歩きながら話すことが幸せだと感じます。家族と小さなことで笑い合い、食卓を囲み、今の時期はクリスマスツリーを飾り、そしてオーナメントを飾ることが私にとっての幸せです。

些細なことでも少し悪いことが続くと不幸だと言っている人をよく見かけることがあります。

私はこの言葉を聞くとその人の事を残念な人だなと思ってしまいます。なぜかというと、この世の中には、お金もなく、自分の家もなく、子供たちが銃を持って生活している国もあります。しかし、誰かと話すことで、騒ぐことで、毎日が楽しいと言う子もいるとテレビでみました。日本はこんなにも環境が優れているにもかかわらず、不幸だと感じる人が多いなと思いました。まず、安全に暮らすことが難しい人が世界にはたくさんいます。その中で些細なことで不幸と決めつけるのはあまり良くないのではないかと思います。ですが人が幸せと感じることはそれぞれに違い、自分が正しいと思ってその価値観を押し付けるのは間違っていると思います。

ですが、こうして命を狙われることなく安心して暮らして、こうして生きていることが奇跡であり、一番の幸せだと私は思います。幸せなことがあるからこそ、みんなは些細なことでも不幸だと感じるのだと私は思っています。 環境があまり良くない国でも、人と一緒にいて楽しくしている人々もいます。

なので、私は今後、周りの友達や家族が不幸だと感じている時は、私が周りを幸せにできるようにしたいと思います。そのためには、私自身が幸せでいることが大事だと思います。その人が不幸だと感じている時は、小さいことでも気づけるような人になりたいと思うようになりました。

私はそんな小さなことでも気づける人が、I 番の幸せを感じられると思いました。

そして、その人が少しでも幸せになれたら、私も幸せになるので 他人の小さな幸せを一緒に喜べるような

人になれたらいいなと思いました。みんなが笑顔になれる活動をしていきたいです。

T さん（11 期生）

「幸せとは」

みなさんの思う「幸せ」とはなんですか。辞書を引いてみると、①幸運に恵まれて、心が満ち足りていること。②めぐり合わせ。運と書かれていました。私が思う幸せは、「友達のいる生活」です。

高校に入学して初めての友達とは価値観が合わず、一年生の二学期に疎遠になってしまいました。そのときの私と同じ状況の子がいて、話しているうちに、お互い人見知りということもあり、話の合う友達ができました。「性格は真逆なのに価値観合うんやな。」と二人で言って笑っていました。今でも一緒にいることが不思議なくらいです。

二年生に上がり、その子とはクラスが離れてしまい、今のクラスで自分はやっていくことが出来るのか不安に思っていました。それは私だけでなくその子も思っていることでした。休み時間になると、すぐに二人になり話をしていました。時間が経っていき、お互いにクラスにもなじんでいきました。

二年生の中で一番大きな行事があります。先月、修学旅行で沖縄に行ってきまた。ホテルや班、タクシー研修などでメンバーを決めなければなりません。クラスに特別仲の良い子がいなくて、どうしようかと悩んでいました。しかし、決める日にはすでに仲良くなった子がいたのでなんとか乗り切ることができました。沖縄では、戦争の悲惨さ、人の温かさ、改めて友達の大切さに気づくことができました。こうして気づくことが出来て、修学旅行は最高の思い出になりました。修学旅行から帰ってきてからは、ずっとその子達といるようになりました。

今、私の周りには友達同士で縁を切ったなどという話をよく耳にしますが、それもその人にとってのある意味幸せなのではないでしょうか。新しい友達に出会うきっかけができたのですから。

最後に、休み時間に話をしながらお菓子を食べる。そんな何気ない時間が一番好きです。友達に囲まれ、普通の日常を送るのが私の幸せです。

K さん（10 期生）

「選択」

人間は生きる上で常に選択しないといけないことに直面する。小さいことなら、お昼は何を買うか、あるいは放課後は勉強するかどうか。ただし自分の人生を変えるほど大きい選択にも出会うことがある。例えば大学はどこに行くか、どんな仕事に就いたらずっと頑張れるか。人は選択しながら生活していく、それは誰でも同じこと。

しかし後から見ると、自分がしていた選択が間違っているかもしれない。小さいことで選択ミスしたらやり直しができるけど、もし人生に関することで間違った場合はやり直せないのかも。

私も大きい事で選択ミスをした。しかも何回もしていた。最近した一番大きなミスは、高校授業選択で科目を間違って選んだこと。文系の生徒は歴史について日本史と世界史の二択がある。中国人はみんなカタカナが覚えにくい。それを知った上で世界史を選択した。理由は二つある。一つ目は、中国史はほとんど知っているから有利であると思っていた。二つ目は自分がローマ帝国の歴史が好きだからそれについてもっと勉強したいと思ったからです。しかし、二年の初めの中間考査で自分がミスしたことに気づきました。膨大な量のカタカナの名詞が頭の中に入ってこない。しかしそれでも諦めずに三年の I 学期の中間考査まで世界史を勉強

した。でも、できないことはいつになってもできない。受験が迫ってくる中、私は塾で日本史を学び、そして受験で使うことを決めた。

日本史を勉強し始めてから半年が経った。やっぱり漢字は覚えやすいということがわかった。でも世界史をしていたお蔭で、時代の流れをつかみやすいし、対外関係の問題はほとんど点数を落とすことがない。

今でも、自分が世界史を選択していたことは損か得かどちらにとも言えないと思う。時間を無駄にしたけど、その代わりに世界のことについてもたくさん知るようになった。その知識は将来いつか使えると信じている。

私は選択ミスをして、だけどミスしたことで得することもある。選択ミスしない人はいないので、大切なことは、やり直す勇気とミスしたことをいい経験と思うことではないかと今は感じている。

N さん（10 期生）

「スウェーデンの高校生活動家グレタ・トゥンベリさんについて」

グレタさんは、「よくもそんなことを！(How dare you!)」のフレーズでよく知られている環境保護スピーチを行った 16 歳の女性です。私がグレタさんについて知ったのは SNS 上で、その時私は不快感といら立ちを感じました。というのも、そこにはグレタさんの家庭が裕福である、俗に言えばセレブであり、そのスピーチでノーベル賞受賞者の候補に挙がっていることが書いてあったからです。セレブで大量消費をしながら環境について語る矛盾した子どもが、ノーベル賞をとろうとしていることに私はとても腹が立ちました。私の最初の印象はそういったただただ批判的なものでした。

彼女についてより詳しく調べてみると、ヨットで海を渡ったり、学校を休んでデモをしていることが分かりました。他には実は、アスペルガー症候群であり、正直に発言しすぎるという症状を強みに変えて活動しており、障がいを持っている人の希望になろうとしていることも知りました。そういった活動や、十代で人々に呼びかける行動力はとても素晴らしいと思います。それでも私はまだ彼女に賛成できません。確かに若者が声を上げる姿は人の心を動かすかもしれませんが、彼女は周りの人に行動を呼びかけているだけです。それは、ずっと前から他の人もやっていることです。その上で、何をどうすればいいのかを考えて行動をするのです。つまりできるならとっくにやっているはずなのです。単純に経済の発展を抑えて、環境保全に全力で取り組めばよいというものでないと思います。今の時代、もはや義務教育とさえ言われている高校の教育を放って感情論で権力者を煽っている様子は、とても賛成できません。

彼女の呼びかけで多くの人が動き出しているのは事実です。しかし、高ぶった感情に任せて順序を考えない崇高な考えだけ掲げてもどうにもなりません。その順序とは、具体的な策は何か。頭の良い、大学を出ている大人でもすぐ実行できる策が思いつかないのです。私にも思いつきません。ずっと考えてばかりでなく、行動することも重要ですが、高校を卒業してからでもよいのではないかと私は考えます。

V さん（10 期生）

「環境問題について」

今年の 9 月 23 日にニューヨークで開かれた国連気候行動サミットでスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんが約 5 分のスピーチをしました。彼女のスピーチの内容は、地球温暖化に本気で取り組んでいない大人に対する叱責と地球温暖化の危険性でした。16 歳というすごく若い彼女が、世界のリーダーの前で涙を浮かべながらスピーチを発表したことは本当にすごいことだと思いました。そして何よりも環境問題について学校で研究し続けた私は、彼女のスピーチにすごく感動しました。

トゥーンベリさんは「多くの人たちが苦しんでいます。多くの人たちが死んでいます。全ての生態系が破壊されています。私たちは大量絶滅の始まりにいます。」と言いました。全くその通りです。技術が優れていてすごく便利な日本に暮らしている私たちは、普段地球温暖化の影響をあまり感じないでしょう。しかし、地球温暖化で絶滅してしまった動物や植物がたくさんいます。海水面上昇で島が沈んでしまって生活する場所を失った人もたくさんいます。そして一番衝撃的なのは、これから沈んでしまいそうな国の中で最も可能性が高かったのは、日本の大阪府です。このような危険な状況の中で私たちは生きています。

この地球温暖化をトゥーンベリさんは、政府や企業に訴えたのですが、私は最も訴えるべきなのは、大人も子供も全部含めて一般人である私たちだと思います。私たちはこの環境問題に積極的に取り組もうとしていない。だから政府や大企業もこの問題を「スルー」するのではないでしょうか。私たちは無意識で毎日大量のプラスチックや排気ガスを自然界に出して、私たちは無意識で地球を破壊しているので、最も責任を持つべきなのは、一般人である私たちではないでしょうか。

私はトゥーンベリさんのように学校をやめて世界中を回って地球を救うために働くことはできず、国連に出て世界中の人々に影響を与えることもできないですが、自分の家族や友達に、地球をこれ以上ひどくさせないでいこうと説得しています。そのために私はビニル袋とペットボトルとストローなどのプラスチックをできるだけ使用しないようにしています。私の行動や話で変わってくれた友達がいます。その友達も彼らの友達や家族に伝えてみんなでプラスチックの使用量を減らしていけたらいいなと思います。

コンビニに行く時に袋をもらわないようにすること、自分の水筒を持つこと、そして地球のために動く機関に募金することなどの意識をすれば誰だってできる簡単な行動で地球を救えます。

今世界中にテロ、貧困、紛争、難民などたくさんの問題がありますが、今すぐにみんなで手を合わせて取り組むべきなのは環境問題だと思います。私たちはこの問題を考慮に入れて過ごさなければならないのです。